

# 私たちの大切な地域医療を守るために

## 郡上市の今後の地域医療を

### みんなで一緒に考えよう



▲慈恵中央病院  
竹内 理事長

## 郡上市の精神科医療について

今月は、精神科医療について取り上げます。以前は、郡上市内で精神科は慈恵中央病院だけでしたが、心療内科が郡上市民病院にでき、また、岐阜県内にも多くの心療内科の診療所、いわゆるメンタルクリニックができ、それぞれに通院されている人が相当増えています。厳密に言う心療内科は、内科の一部門に属しており、精神科と全く同じではないのですが、実際には心療内科の医師は精神科出身者がほとんどですし、対象となる疾患は多くの部分でオーバーラップしていますので、どちらにかかっても同じと考えて差し支えありません。

2014年の日本の全病床数は168万床で、そのうち精神

病床は33万床です。約20%に相当します。意外なほど数が多いと思われませんか。

歴史的には、精神科病院は統合失調症の患者さんのために作られました。しかし、2000年以降その割合はどんどん減ってきています。その分、認知症を伴う高齢者の入院が増えています。

私が精神科医になった30数年前、精神科で診る病気は統合失調症等の精神病圏の障害、躁うつ病、不安障害（神経症）が主でした。しかし、社会の変化に伴い生き難い世の中になったこと、精神障害への関心・知識が広まったこと、そして各地に心療内科の診療所ができ、受診しやすくなったことなどで、患者数は年々増加しています。

精神科で扱う病気は大変幅が広いです。その中で2000年以降に特に増えた障害は、一つが発達障害（自閉症、アスペルガー症候群、ADHDなど）であり、もう一つが認知症です。過去には見過ごされていた大人の発達障害への社会の関心が高まって、その

医療を取り巻く環境は大きく変化し、特に私たち郡上市のような地域では、医療環境の維持が難しくなっています。そのような中で市民のみならず、行政や医療機関だけでなく、市民のみならず、ご理解とご協力が不可欠です。そこで郡上市における地域医療の現状や課題等を広く知っていただくため、病院や医師の先生方にご協力をいただいで広報誌でお知らせしています。

第10回目となる今回は、慈恵中央病院 竹内巧治理事長に寄稿いただきましたのでご紹介します。

人たちが生きやすい社会になることが望まれます。

各種の依存症対策も進んできました。昔からアルコール依存症はありましたが、最近では、特に高齢者における飲酒が問題になっています。大量の飲酒は認知症になりやすいことが確認されています。また、各種薬物依存も依然として社会的な問題として続いています。シンナーと危険ドラッグは激減しました。しかし、覚せい剤や大麻の使用は依然として蔓延しています。郡上市でも覚せい剤で検挙される事件は後を絶ちません。睡眠導入剤、安定剤等の医者で処方される薬への依存も問題になっています。ただし、睡眠導入剤は指示されたとおりに服用して、十分な睡眠をとれば健康のために有用と私は考えています。その他、ギャンブル依存症、買い物依存症、ゲーム・スマホ依存症なども近年精神科医療の対象になっています。

全国には、100万人の社会的引きこもりといわれる人がいると言われています。この人達に

（表1）介護が必要となった原因《要介護1以上》

第1位	認知症	24.8%
第2位	脳血管疾患	18.4%
第3位	高齢による衰弱	12.1%
	その他	44.7%

資料出典：厚生労働省「平成28年 国民生活基礎調査」

対応すべく、郡上市では継続した取り組みを行っているのですが、なかなか成果があらがらないのが現状です。

高齢者人口全体の増加と平均寿命が延びることに伴い、認知症の患者数は、今後2040年頃までは増え続けることが予想されています。平成28年に介護保険で要介護1以上になった最大の原因は認知症の24.8%です（表1）。

認知症で最も患者数が多いアルツハイマー型認知症の治療薬の研究は世界中で行われていますが、確実なものはありません。現在、アルツハイマー型認知症の予防で唯一医学的に認められているのは運動です。一時期はやった脳トレの効果は、現在は否定的です。

40代から80代までの死因の第1位はガンですが、20代、30代の死因の第1位は自殺です。郡上市では毎年10名以上の人が自殺しています。自殺防止と虐待防止のための協議会を組織し、命の大切さを訴えています。また、各種の心の問題に関する相談窓口があり、郡上市のホームページにも、医療機関や相談窓口等に関する情報が掲載されています。

身体的にも、精神的にも、健康であることを目指して、我々精神科医も頑張っていますので、市民の皆様どうぞよろしくお願いいたします。